

総研大・葉山高等研究センターのプロジェクト研究

菅原 寛孝 総研大・葉山高等研究センター センター長

わが国では、アーカイブズの重要性があまり認識されていないのが現状です。外国、特にアメリカではアーカイブズが非常に充実しており、また技術的な進歩も急速に進んでいます。最近ではデジタル・アーカイブズに関する技術開発もさかんに行なわれていますので、昔は史料館に出向いて調べなければなりません。最近ではインターネットなど多様な方法による検索が可能になっています。

私は、総研大に葉山高等研究センターが開設されるにあたり、センター長をつとめることになりましたが、まったくのゼロからのスタートでしたので、まず科学技術と安全保障、アーカイブズ構築などいくつかのプロジェクトを計画しました。アーカイブズ同様、科学技術と安全保障もまた、日本のアカデミック・コミュニティではほとんどタブー視されており、非常に遅れている分野です。アメリカでは、有名なフーバー研究所をはじめ戦略的な研究所がいくつか存在し、戦争と平和に関するアーカイブズが非常に充実しています。私自身も最近フーバー研究所を見学してきましたが、これは、フーバー大統領自身の要望に即して開設されたものだけに、1千万点を超える資料がそろっており、またアーカイブズ自身の手法に関する研究も意欲的に行なわれています。

われわれのプロジェクトにおいても、アメリカとは異なるかたちで安全保障をとりあげていきたいと考えています。具体的に言えば、人間の本性にたちもどり、遺伝子レベルまでさかのぼって人間の攻撃性などの研究を始めたいと思っています。人間の倫理に絡む問題のため、生命倫理の分野からの批判もありますが、一方、科学者が根源的な観点からこうした問題に取り組むことへの理

解も広がりつつあります。

さて、われわれの別のプロジェクトに、大学共同利用研究機関の成立に関する歴史研究があります。総研大として、どうかたちでアーカイブズ構築に貢献すべきかを考えてみたいと思います。まず各研究機関（大学に限らず、研究所、博物館、附置研究所も対象としています）で収集した独自の資料を各機関で整備するとともに、いずれは大学共同利用研究機関で活用することを計画しています。現在は、総研大と核融合研と共同でデジタル・アーカイブズのシステム開発を試みています。このシステムが整備されれば、各研究機関も参画しやすくなると思います。

また高エネルギー加速器研究機構(KEK)など各資料室は独自に活動し、資料の保管につとめるとともに、デジタル・アーカイブズなど技術的な研究も進めていく必要があるでしょう。その手法の一環として、設立当初に関わられた方々へのインタビューなどを通じてオーラル・ヒストリーを整備していくことが考えられます。このような手法についてさまざまな検討を加えていくことも、総研大の役割であろうと思います。そして最終的には、総研大だけ、あるいは大学共同利用研究所・研究機関だけで閉じない統一的なデータベース構築をめざしていくことが重要でしょう。